



平成27年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成27年4月14日

東

上場会社名 株式会社鉄人化計画

上場取引所

コード番号 2404

URL <http://www.tetsujin.ne.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 堀 健一郎

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員管理本部長 (氏名) 国本 亮一 (TEL) 03-3793-5117

四半期報告書提出予定日 平成27年4月14日 配当支払開始予定日 平成27年5月11日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年8月期第2四半期の連結業績 (平成26年9月1日～平成27年2月28日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年8月期第2四半期	5,003	△1.7	233	211.7	270	380.9	175	—
26年8月期第2四半期	5,087	3.2	74	△58.7	56	△60.1	△26	—

(注) 包括利益 27年8月期第2四半期 206百万円(—%) 26年8月期第2四半期 2百万円(△79.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年8月期第2四半期	28.30	28.29
26年8月期第2四半期	△4.31	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年8月期第2四半期	10,019	1,955	19.5
26年8月期	10,083	1,777	17.6

(参考) 自己資本 27年8月期第2四半期 1,955百万円 26年8月期 1,777百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年8月期	—	0.00	—	4.50	4.50
27年8月期	—	5.50	—	—	—
27年8月期(予想)	—	—	—	5.50	11.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年8月期の連結業績予想 (平成26年9月1日～平成27年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	9,980	△1.7	552	80.9	593	104.3	335	151.6	53.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年8月期2Q	6,687,200株	26年8月期	6,687,200株
② 期末自己株式数	27年8月期2Q	476,600株	26年8月期	476,600株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年8月期2Q	6,210,600株	26年8月期2Q	6,210,600株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であります。この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続は完了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	P. 2
(1) 経営成績に関する説明	P. 2
(2) 財政状態に関する説明	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	P. 4
2. 四半期連結財務諸表	P. 5
(1) 四半期連結貸借対照表	P. 5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	P. 7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	P. 9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	P. 10
(継続企業の前提に関する注記)	P. 10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	P. 10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済は、政府の経済政策や日本銀行の継続的な金融緩和等の施策により、企業収益の改善や雇用情勢の回復傾向が見られるなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。一方、米国の金融政策正常化に向けた動きの影響や原油価格下落の影響に加え、国内では円安における輸入価格の上昇等の懸念材料があり、引続き我が国の景気を下押しするリスクを抱えております。

このような経済環境の下、当社の主力事業であるカラオケルーム運営事業におきましては、競合他社による主要エリアにおける出店ラッシュに加え低価格競争の激しさが増しており、当社固有の差別化された特色あるサービスの提供を推進することにより、顧客満足度の向上と着実に利益を確保することに注力いたしました。

繁忙期については全店一斉に販売促進キャンペーンを展開した他、法人営業部門の新設、コラボルームの積極展開等を進め、売上の伸長を進めてまいりました。一方、閑散期については提供メニューの整理見直しや人員管理を工夫することによるコスト抑制、効率的な販売促進活動に取組み、店舗原価の抑制に取り組んでまいりました。

その結果、売上高は前年同四半期に対して微減となりましたが、営業利益は前年同四半期に対して大きく増加いたしました。

また、引続き有利子負債の削減を進め、財務基盤の強化についても取り組んでまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高5,003百万円（前年同四半期比1.7%減）、経常利益270百万円（前年同四半期比380.9%増）、四半期純利益175百万円（前年同四半期四半期純損失26百万円）となりました。

セグメントの業績は次のとおりです。

以下の売上高にはセグメント間の内部売上高又は振替高を含んでおります。

(カラオケルーム運営事業)

当事業におきましては、潜在的な収益力の高い店舗に経営資源を集中し、全部門一丸となった顧客満足度重視の店舗運営に加え法人営業を推進したことにより、前年同期末比5店舗減ながら売上高は微減にとどめる事が出来ました。また、提供メニューの全面リニューアルによる原価率の改善に取り組んでまいりました他、当社ユーザーニーズに基づいたアーティストやキャラクターとのコラボレーション企画等のイベントを積極的に推進してまいりました。

このような方針の下、新規出店を抑制し店舗数減少となる状況であったものの、比較可能な既存店^{*1}の売上高が前年同四半期比101.6%となるなど売上維持・向上ならびに利益確保に取り組んでまいりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間におけるカラオケルーム運営事業の売上高は店舗数の減少の影響もあり4,187百万円（前年同四半期比0.9%減）、一方セグメント利益（営業利益）は474百万円（前年同四半期比45.9%増）となりました。

※1 比較可能な既存店とは、営業開始後12ヶ月を経過して営業を営んでいる店舗で前年対比が可能なものをいいます。

以下、同様であります。

(フルサービス型珈琲ショップ運営事業)

京都を中心にからふね屋珈琲の屋号でフルサービス型珈琲ショップ運営を行っております。近年のカフェブームを背景に京都河原町三条・本店の近隣では競合店の出店ラッシュとなっておりますが、徹底した接客サービスの向上に注力いたしました結果、比較可能な既存店の売上高が前年同四半期比106.3%となり、また設備投資抑制によるコストダウン効果もあり利益面でも好調に推移いたしました。

なお、フルサービス型珈琲ショップ1店舗を運営しておりました、鐵人化計画股份有限公司については、平成27年1月26日に発表いたしましたとおり、清算すべく手続を進めております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間におけるフルサービス型珈琲ショップ運営事業の売上高は398百万円（前年同四半期比3.9%増）、セグメント利益（営業利益）は15百万円（前年同四半期比177.2%増）となりました。

(CP事業)

当事業におきましては、「カラオケの鉄人モバイル」(以下、「カラ鉄モバイル」という。)サイトを中心に運営を行っております。前期に引き続き効率的なサイト運営を行った結果、売上高は減少となりましたが、利益は増加いたしました。

その結果、当第2四半期連結累計期間におけるCP事業の売上高は172百万円(前年同四半期比25.5%減)、セグメント利益(営業利益)は111百万円(前年同四半期比27.9%増)となりました。

(その他)

その他の業績概要は、以下のとおりです。

ビリヤード・ダーツ遊技場運営事業におきましては、当第2四半期連結累計期間に1店舗を閉店したため、売上高は前年同期に比べ減少いたしました。

まんが喫茶(複合カフェ)運営事業におきましては、近年大型のアミューズメント設備(ビリヤード・ダーツ、カラオケルームなど)を併設する店舗が増加傾向にある中、当社グループは従来型のコミックとインターネット、オンラインゲーム等の個人向けコンテンツに特化したサービスを提供しております。同事業に関わる種々法規制は年々厳しくなっていることもあり、1店舗閉鎖したことから、売上高は減少となりましたが、利益面では改善いたしました。

音響設備販売事業におきましては、カラオケ機器及び周辺機器の販売並びに同機器のメンテナンス業務を行っております。

また、アメリカ合衆国の準州であるグアムに本店を置く、TETSUJIN USA Inc.はグアム・タモン地区「Guam Reef & Olive Spa Resort」内でエンターテイメントレストラン1店舗を運営しております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間におけるその他の売上高は356百万円(前年同四半期比24.4%減)、セグメント利益(営業利益)は17百万円(前年同四半期セグメント損失(営業損失)0百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明**①資産、負債及び純資産の状況****(資産)**

当第2四半期連結会計期間末における、資産の合計は、10,019百万円となり、前連結会計年度末に比較して63百万円減少いたしました。

流動資産は、2,942百万円となり、113百万円減少いたしました。主な要因は、現金及び預金が192百万円減少したことなどによるものであります。固定資産は、7,077百万円となり、49百万円増加いたしました。主な要因は、無形固定資産が増加したことなどによるものであります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における、負債の合計は、8,064百万円となり、前連結会計年度末に比較して241百万円減少いたしました。主な要因は、長期・短期借入金が増加したことなどによるものであります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における、純資産の合計は、1,955百万円となり、前連結会計年度末に比較して178百万円増加いたしました。主な要因は、利益剰余金が増加及び為替換算調整勘定が26百万円増加したことなどによるものであります。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下、「資金」という）は、前連結会計年度末に比較して192百万円減少（前年同四半期は949百万円の減少）し、1,947百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果増加した資金は、549百万円（前年同四半期比113.7%増）となりました。収入の主な内訳は税金等調整前四半期純利益239百万円及び減価償却費237百万円によるものであり、支出の主な内訳は法人税等の支払額80百万円等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は、97百万円（前年同四半期比75.7%減）となりました。これは主に無形固定資産の取得による支出93百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果減少した資金は、647百万円（前年同四半期は812百万円の減少）となりました。これは主に長期借入による800百万円の資金調達を行った一方で、長期・短期借入金の返済1,303百万円及び社債の償還50百万円を行ったことによるものであります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの業績は、その事業規模からカラオケルーム運営事業に大きく依存しております。当事業は、忘年会等が多く行われる12月を含む第2四半期と、歓送迎会等が多く行われる3月、4月を含む第3四半期に売上が偏重する傾向があるため、各四半期の業績が必ずしも通期の業績に連動するとは限りません。

また、景況感の復調による消費者の安近短レジャー離れや消費税増税に伴う消費者マインドの低下などの懸念も存在する中で、当社グループと同業の競合店だけではなく娯楽・サービスを営む他業種との間においても顧客獲得競争の激化が予想されるなど当社グループの営業努力で解決できない事態となった場合には、業績が影響を受ける可能性があります。

カラオケルーム運営事業におきましては、店舗商圏・環境を意識したセグメント・マーケティングを実践することにより、売上の維持及び利益率の向上に取り組んでまいります。

フルサービス型珈琲ショップ運営事業におきましては、京都河原町三条・本店におけるブランドイメージの構築に注力するとともに、からふね屋オリジナルスイーツの販売、更なる新メニューの開発などを進めてまいります。

CP事業におきましては、引続き効率的な運営を進め、利益確保に努めてまいります。

その他「まんが喫茶（複合カフェ）運営事業」におきましては、今後も店舗ごとのコスト管理徹底を行い、利益確保重視で事業を進めてまいります。

以上を継続推進していくために、並行して財務基盤の強化にも注力してまいります。その一環として、継続的な成長が見込めない店舗については、営業フロアの縮小や店舗業態の変更、スクラップを進めていくほか、有利子負債についても営業キャッシュの利用により引続き削減してまいります。

以上の状況により、現時点における当期の業績見通しは、平成26年10月15日に公表いたしました「平成26年8月期 決算短信」の平成27年8月期の通期の連結業績予想に変更はありません。

※当該業績予想については、現時点において入手可能な情報に基づき当社グループが判断したものであり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。そのため、様々な要因の変化により、実際の業績はこれと異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,218,955	2,026,281
受取手形及び売掛金	147,953	127,316
商品及び製品	29,379	27,728
仕掛品	3,553	3,769
原材料及び貯蔵品	117,266	105,192
その他	539,829	652,997
貸倒引当金	△891	△757
流動資産合計	3,056,047	2,942,528
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,028,072	2,905,590
工具、器具及び備品(純額)	190,544	169,111
その他(純額)	1,056,248	979,918
有形固定資産合計	4,274,864	4,054,620
無形固定資産		
のれん	96,482	60,380
借地権	133,892	133,892
その他	395,391	500,731
無形固定資産合計	625,766	695,004
投資その他の資産		
差入保証金	1,845,720	1,801,656
その他	304,926	545,692
貸倒引当金	△23,882	△19,590
投資その他の資産合計	2,126,764	2,327,758
固定資産合計	7,027,395	7,077,383
資産合計	10,083,442	10,019,911

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成27年2月28日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	203,131	163,639
短期借入金	18,260	—
1年内返済予定の長期借入金	2,384,641	2,300,018
1年内償還予定の社債	90,000	50,000
未払費用	527,273	533,108
未払法人税等	93,412	124,573
賞与引当金	7,248	7,785
ポイント引当金	16,694	16,774
その他	303,629	341,631
流動負債合計	3,644,290	3,537,531
固定負債		
社債	230,000	220,000
長期借入金	4,182,664	3,783,043
資産除去債務	26,259	30,990
その他	222,775	492,678
固定負債合計	4,661,699	4,526,712
負債合計	8,305,989	8,064,243
純資産の部		
株主資本		
資本金	743,509	743,509
資本剰余金	736,667	736,667
利益剰余金	472,855	620,676
自己株式	△176,550	△176,550
株主資本合計	1,776,482	1,924,302
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,592	5,892
為替換算調整勘定	△821	25,272
その他の包括利益累計額合計	771	31,164
新株予約権	200	200
純資産合計	1,777,453	1,955,667
負債純資産合計	10,083,442	10,019,911

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)
売上高	5,087,713	5,003,679
売上原価	4,285,689	4,031,434
売上総利益	802,023	972,244
販売費及び一般管理費	727,053	738,552
営業利益	74,970	233,692
営業外収益		
受取利息	374	351
受取配当金	631	780
協賛金収入	20,718	62,999
為替差益	15,196	12,495
その他	24,136	15,039
営業外収益合計	61,057	91,666
営業外費用		
支払利息	54,495	44,613
支払手数料	18,499	6,000
その他	6,882	4,696
営業外費用合計	79,877	55,309
経常利益	56,150	270,049
特別利益		
固定資産売却益	1,104	11,744
特別利益合計	1,104	11,744
特別損失		
固定資産売却損	41	280
固定資産除却損	3,968	100
減損損失	—	41,532
特別損失合計	4,010	41,913
税金等調整前四半期純利益	53,244	239,880
法人税等	80,038	64,111
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△26,793	175,768
少数株主損失(△)	△2	—
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△26,790	175,768

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株 主損益調整前四半期純損失(△)	△26,793	175,768
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	635	4,299
為替換算調整勘定	28,768	26,093
その他の包括利益合計	29,403	30,393
四半期包括利益	2,610	206,161
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,612	206,161
少数株主に係る四半期包括利益	△2	—

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	(単位：千円)	
	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年9月1日 至平成26年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年9月1日 至平成27年2月28日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	53,244	239,880
減価償却費	271,789	237,079
減損損失	—	41,532
のれん償却額	36,304	36,102
長期前払費用償却額	21,296	20,305
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△1,086	△4,425
ポイント引当金の増減額(△は減少)	727	79
受取利息及び受取配当金	△1,006	△1,131
支払利息及び社債利息	54,495	44,613
為替差損益(△は益)	△13,616	△11,652
有形固定資産売却損益(△は益)	△1,063	△11,463
固定資産除却損	3,968	100
売上債権の増減額(△は増加)	65,846	21,405
たな卸資産の増減額(△は増加)	7,430	13,938
仕入債務の増減額(△は減少)	△125,342	△32,596
その他	10,605	82,391
小計	383,593	676,160
利息及び配当金の受取額	923	1,125
利息の支払額	△63,635	△47,436
法人税等の支払額	△63,626	△80,207
営業活動によるキャッシュ・フロー	257,254	549,642
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有価証券の取得による支出	△2,268	—
有価証券の売却による収入	4,350	—
有形固定資産の取得による支出	△280,733	△13,572
有形固定資産の売却による収入	42,903	40,918
無形固定資産の取得による支出	△75,213	△93,635
投資有価証券の取得による支出	△273	△398
貸付けによる支出	△30,507	△20,000
貸付金の回収による収入	405	2,180
差入保証金の差入による支出	△71,300	△20,672
差入保証金の回収による収入	13,656	2,920
投資その他の資産の増減額(△は増加)	△2,614	4,495
投資活動によるキャッシュ・フロー	△401,595	△97,764
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	100,000	—
短期借入金の返済による支出	△149,960	△18,260
長期借入れによる収入	850,000	800,520
長期借入金の返済による支出	△1,495,456	△1,284,763
社債の発行による収入	98,090	—
社債の償還による支出	△100,000	△50,000
リース債務の返済による支出	△68,193	△67,544
配当金の支払額	△46,527	△27,909
財務活動によるキャッシュ・フロー	△812,046	△647,957
現金及び現金同等物に係る換算差額	6,944	3,402
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△949,443	△192,677
現金及び現金同等物の期首残高	2,582,439	2,140,556
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,632,995	1,947,878

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。